

vol.48- 5 (通算 542号)

2018年8月号

やどかり

2018年8月15日発行
(毎月1回15日発行)1987年12月19日第三種郵便物認可
発行人 公益社団法人やどかりの里
代表者 土橋 敏孝

〒337-0043 さいたま市見沼区中川562

TEL 048-686-0494

FAX 048-747-7030

URL <https://www.yadokarinosato.org/>

定価 50円(含会費)

住み慣れたこの地域で暮らし続けていきたい

やどかりの里グループホーム「あおぞらハウス」建設

2017年にサポートステーションやどかりの東側にある土地を購入し、やどかりの里では初めてとなる自前のグループホーム「あおぞらハウス」(定員7人)の建設に向けて、準備を進めてきた。2018年7月2日、さいたま市より障害者施設整備事業として採択され、建設費の一部の補助を受けられることになり、いよいよ建設が進められていくことになった。

やどかりの里における住まいの場の支援は、精神科病院に入院している人たちが退院して地域で暮らせることを目指し、やどかりの里設立当初に工場の2階に間借りした中間宿舍の活動から始まった。その後、職員が生活を共にして生活の支援をする共同住居やグループホームの運営などを試行的に行ってきた。そして1992年に精神障害者グループホームが制度化され、地域のアパートを借りて、精神科病院に長期に入院している人の退院先などとして受け入れ、入居するメンバーの状態やニーズに合わせて活動を展開してきた。

現在は、定員58名の規模となり、入居者の平均年齢も60.3歳(2018年7月末現在)と高齢化してきている。加齢に伴い、生活習慣病などの内科的な疾患や認知機能の衰えなど、手厚い支援が必要な人も増えてきている。また、精神科病院からの退院先として、家族から離れて自立した暮らしを築くためなど、グループホームのニーズは高い。さいたま市

の障害者総合支援計画においてもグループホームの拡充は重点項目である。これから建設するあおぞらハウスでは、住み慣れた地域で暮らし続けたいというメンバーのニーズにも応えられるよう、バリアフリーで、入居者の状態に合わせたきめ細かい支援ができるように支援態勢を整え、2019年4月開所を目指している。

一方、グループホーム運営を進めていく上で、制度上の脆弱さによる運営の厳しさ、支援する職員の人材確保の困難さなどは、やどかりの里に限らず、市内、県内あちこちの現場から悲鳴が上がっている。規制緩和により、さまざまな組織が運営に参入し、グループホームの数は増えているが、グループホームは制度上、夜間の支援を行うことになっているため、日中は決まった事業所に通わなければならないかたり、職員が不在のためグループホームで過ごすことができないなどの実態もあるようだ。

グループホームを取り巻く現状は厳しい。しかし、やどかりの里では、その人がどう暮らしていきたいのか、どう生きていきたいのかを中心に据え、支援や活動を進めてきた。障害者権利条約とも照らし合わせ、改めて、地域の人たちとの関係を大切にしながら、「ここに住んでよかった」と思えるグループホームづくりを進めていきたい。